

みなさんは「白内障」と「緑内障」の違いを正しく理解できていますか？



どちらも目の代表的な病気で、名前も似ていることから混同されがちですが、これらは全く異なる病気です。

老化現象の一つである「白内障」には手遅れが無いのに対し、進行すれば失明の恐れのある「緑内障」では、早期の発見と治療開始が重要です。

また、日本人における緑内障の罹患率は、「40歳以上の20人に1人」という高い確率が報告されています。

ふたつの違いを正しく理解し、40歳を過ぎたら定期的に目の健診を受けることをお勧めします。



白内障

通常は透明である水晶体（カメラのレンズに相当する部分）が濁る病気です。

原因

一般的なのは加齢によるもので、年をとると白髪になるのと同じです。若い人ではアトピー性皮膚炎や糖尿病などの全身疾患に合併するものや、外傷性のももあります。

症状

レンズが濁るため、視力が低下します。濁り方が人によって違うため症状も様々ですが、かすむ、眩しい、だぶる、といった症状があらわれます。

治療

点眼薬で進行を遅らせます（濁りを取るわけではないので視力は回復できません）。進行し日常生活に不自由ができれば手術で濁った水晶体を取り除き、代わりに人工レンズを挿入します。近年では多くの病院で日帰り手術が主流になりつつあります。



経過

手術の後、数ヶ月～数年で再びかすみや視力低下がみられることがあります。これは手術の際に、人工レンズを入れるために残しておいた膜が濁るためです。この濁りはレーザーで簡単に除去することができ、視力は回復します。

緑内障

目の神経が障害され、視野（見える範囲）が狭くなり、進行すれば失明に至ることもあります。現在、日本人の中途失明原因の第一位とされています。



原因

眼圧の上昇により神経が障害されるためとされていますが、眼圧が正常値であっても、神経がその圧に耐えられず障害されてしまう「正常眼圧緑内障」も多くみられます。遺伝的要因もあり、近親者に緑内障罹患者がいる場合、発症率は高くなります。

症状

多くの場合、末期に至るまで自覚症状がありません。ただし、急性の緑内障発作の場合、急激な眼圧の上昇に伴い、激しい目の痛み、頭痛、嘔吐などの症状が起こり、治療は緊急を要します。

治療

神経が障害されるのをくい止めるために、眼圧を低くコントロールします。目薬でのコントロールが不十分な場合には手術を行います。手術をしたからといって緑内障が治るわけではなく、その後も眼圧のコントロールが必要です。

経過

一度損なわれた視神経は、回復できません。

緑内障においては視神経の障害が進行しないよう、生涯にわたり眼圧のコントロールと定期的な検査が必要です。

上野眼科クリニック 院長 上野信也
視能訓練士 藤田真由子

お問い合わせ：津山市健康増進課
TEL 0868-32-2069